

精神保健福祉ネットワーク KANAGAWA

編集発行：神奈川県精神保健福祉センター No72 2021.2 〒233-0006 神奈川県横浜市港南区芹が谷 2-5-2

電話 045-821-8822 FAX 045-821-1711

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f531119/#network>

No.72

目次

- ❁ コロナ禍における関係団体の活動 2
～依存症関連の団体へのインタビュー～
- ❁ 自殺の現状 10
自殺対策普及啓発キャンペーンのグッズを作成しました！
- ❁ 精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療（精神通院医療）について 12



当所から望む積雪の富士山

コロナ禍における関係団体の活動

～依存症関連の団体へのインタビュー～

新型コロナウイルスが発生して一年が経過しましたが、なかなか終息に向かう兆しはみられず、未だ厳しい状況が続いています。

このような困難な状況のなかで、関係団体では、どのように活動されているのか、今回は、依存症関連の5つの団体「AA（アルコールクス・アノニマス）」「依存症回復センターRDP」「(一社)神奈川県断酒会」「横浜ダルク」「NPO法人横浜ひまわり家族会」(五十音順)に御協力いただき、コロナ禍における運営状況、メンバーの方の過ごし方・工夫されていること、その他、県民の皆様や他の関係団体へお知らせしたいことなどについて、紙面でインタビューさせていただきました。

御協力くださった団体の皆様、心から感謝いたします。



AA（アルコールクス・アノニマス）

『AA』は、アルコール依存症からの回復を目指す自助グループです。AAメンバーになるために必要なことは飲酒をやめたいという願いだけです。会費や料金も必要ありません。匿名で参加できます。

1935年にアメリカで創始され、日本では1975年に始まりました。メンバー数は、現在、世界全体では200万人以上、日本では5,700人以上と推定されています。神奈川県内には40以上のグループがあり、毎日各地でミーティングが開かれています。

🍀コロナ禍においてどのように運営されていますか

施設のご理解を得て、感染防止に配慮して会場でミーティングを続けたグループもありましたが、ミーティング会場に使用している公共施設等の多くが休館していた時期は、グループやスポンサーシップ（一対一で先にお酒をやめた仲間が新しい仲間をフォローする）を中心に電話やメールなどで連絡を取り合いました。

併せて、オンラインミーティングも開催しました。オンラインの長所を活かし、日本各地、また世界中の仲間と交流が生まれました。通常ミーティング再開後も、このオンラインミーティングは継続されています。

その他、紙面での分かち合い、青空ミーティング（野外）など工夫してミーティングが行われました。

ミーティング会場の使用が可能になった後も、感染防止対策のため、会場施設を利用する際に、参加者の氏名や連絡先などを記帳、保管することが求められる場合があります。AA ミーティングは、匿名で参加することができ、お互いのプライバシーを守ることを大事にしていますので、このような場合でも、個人情報が他の人の目に触れないように各自で記帳用紙を封筒に入れてもらうなど、プライバシーに配慮して記帳をお願いしています。

AA ミーティングは、予約なしで、直接、来場、参加することができるので、当日にならないと参加者の人数はわかりません。しかし、多くの会場施設が、感染防止対策のため、利用者の人数制限をしています。人数制限以上の参加者が集まった場合は、新しく来た仲間を優先してミーティングを行うなど配慮をしています。また、あらかじめ通常より広めの会場に変更したり、場所を分けて実施する場合もあります。参加をお断りすることはありませんので安心してご来場ください。

🌸メンバーの方の過ごし方・工夫していることを教えてください

私たちは過去の経験から、ひとりでお酒をやめること、ひとりでお酒をやめて生きていくことは難しいと感じています。感染防止に気を配りながら、仲間との繋がりを大事に過ごしています。

🌸その他(県民の皆様や関係機関へのメッセージなどをお願いします)

コロナ禍の中、お酒の問題でお困りの方、また、支援者、ご家族の皆様へ。

ミーティングに直接参加していただく他に、個別にサポートする「12ステップコール」があります。お電話でお話を伺ったり、ミーティングと一緒に行くことができます。病院等へ出向いて AA の紹介や体験をお話ししたり、資料をお送りすることもできます。お気軽に AA 関東甲信越セントラルオフィスまでご連絡ください。

*緊急事態宣言により夜間の使用時間を短縮する施設が多く、ミーティング時間を変更しているグループがあります。オフィスへのお問い合わせ、オフィスHP「ミーティング一覧」でご確認下さい。

TEL : 03-5957-3506

E-mail : aa-kkse@h9.dion.ne.jp

HP : <http://aa-kkse.net/> →



依存症回復センターRDP横浜

『依存症回復センターRDP 横浜』は、アルコール、薬物、ギャンブル、摂食障害、買い物・借金、脅迫的な性行動などの様々な依存症からの回復を支援する通所施設で、利用者は、30代～40代の男性が中心です。自立訓練(生活訓練)事業所の他、横浜市神奈川区内で男性用ナイトケアハウス(シェアハウス)を4ヶ所運営しています。

🍀コロナ禍においてどのように運営されていますか

コロナ禍においても、休むことなく開所しています。

昨年春の緊急事態宣言の期間は、交通機関のラッシュ時を避けるよう、プログラム開始時間を調整して開催していました。

また、地区センターや体育館で行っていた料理や運動のプログラムができなくなったため、施設内で料理をしたり、近隣散歩をするなど、それに代わることを取り入れて、スタッフ・利用者共に息がつかまらないように工夫しました。

検温や消毒などの基本的な対策に加え、セッションルームの机・椅子の配置を円形からスクール形式にし、パーティションを設置するなどの工夫もしています。

また、夜間の自助グループ(AA/NA/GAなど)への参加回数を減らさざるを得ない状況に対応できるよう、デイケアのプログラム終了後、週3回夕方の時間にミーティングを開いています。自助グループのオンラインミーティングも増えてきているので、ナイトケアハウスにパソコンとWi-Fiを設置しました。オンラインミーティングは通所・入寮に関わらず、積極的に利用するように勧めています。

🍀メンバーの方の過ごし方・工夫していることを教えてください

新型コロナウイルスの流行が直接の原因と思われる依存症の再発(薬物や飲酒を再び使用してしまうこと)は、今のところ見られませんが、就労・居宅等の準備のタイミングと重なった利用者への影響はあったように思われます。

夜間の自助グループで他の仲間と会えないことなどそれぞれストレスを感じているようなので、休み時間に声を掛けるなどして、利用者の話を聞く機会を設けるようにしています。

🍀その他(県民の皆様や関係機関へのメッセージなどをお願いします)

毎月第四土曜日に開催している月例勉強会は2月よりオンラインも併用しての開催となります。加えて、2021年4月3日(土)には6周年記念セミナーを開催予定です。こちらもオンライン併用ですので、詳細はホームページにてご確認ください。

RDP横浜のプログラムの要は、リカバリー・ダイナミクス®です。リカバリー・ダイナミクス®は、世界の主要な国々の依存症施設で採用されており、大きな成果を挙げています。コロナ禍においても施設の見学も通常通り受け入れておりますので、ご連絡をお待ちしております。

TEL : 045-595-9867

HP : <http://rd-project.org/> →



(一社)神奈川県断酒連合会

『神奈川県断酒連合会』は、1970年発足のアルコール依存症からの回復を目的とした自助グループです。酒害の啓発や研修会・講演会の開催、酒害相談などの活動を通して、酒害の及ぼす社会悪の防止と社会福祉に寄与するためのさまざまな活動を行っています。

🌿コロナ禍においてどのように運営されていますか

主な活動拠点は、地域の公共施設の中にあるので、施設利用規定に準じて開催しています。

緊急事態宣言発令に伴い施設が閉鎖された際は、民間の貸館を利用していました。

例会への参加を自粛される方や、勤務先の業務指導により参加を見送らざるを得ない方などが多くなり、参加者が減少しています。

直接お会いできない方に対しては、各会の責任者が電話での安否確認を行っています。有志間でのオンラインミーティングも開催している模様です。

通常の運営との違いは、マスク着用により個々の表情やその人のこころの動きが読み取りづらくなること、アルコール消毒も飲酒欲求のトリガー（引き金）となりうることを危惧しています。

発熱のある方に、参加をご遠慮いただくことも心苦しく感じます。

また、参加したいが、公共機関を利用したくない方や、ご家族の方から参加を止められる方もいます。

🌿メンバーの方の過ごし方・工夫していることを教えてください

コロナ禍での影響で顕著なのは、再飲酒する方が増加したことです。

例会から遠のいたことが、一番の原因になりますが、ウイルス感染の恐怖感や雇止めによる経済的不安やテレワークによる家庭内での閉塞感やストレスなどさまざまです。

なるべく孤独になることを避けるため、あらゆる手段を講じて横の繋がりを維持しています。規則正しい食生活や十分な睡眠、日光浴や適度な運動により、精神的不安感を回避しています。

🌿その他(県民の皆様や関係機関へのメッセージなどをお願いします)

不安や恐怖が増幅されると人は精神的ダメージを負います。その影響で、不眠になったり、鬱状態になったり、虐待やDVを繰り返したり、果ては自らの命を絶つ人もいます。あるいは、お酒に溺れてしまう人も多くいます。

少しでもお酒が原因では？と思った方は、お住まいの近くの断酒会にお気軽に参加してください。個別の電話相談や対面相談も行っています。是非ご利用下さい。

ホームページは、[神奈川県断酒連合会](#)で検索してください。



横浜タルク・ケア・センター

『横浜タルク・ケア・センター』は、主に薬物、その他の依存症になった人たちの回復と社会復帰を手助けする施設として 1990 年に設立しました。自分ではどうすることもできなくて、今苦しんでいる薬物依存者やその家族の人たちに、薬物依存症は回復できる病気であり、薬物依存から回復しようとしている多くの仲間がいるというメッセージを伝えています。

🍀 コロナ禍においてどのように運営されていますか

感染症の予防対策として常にマスクの着用はもとより、デイケア入所時には体温チェックとアルコール消毒を徹底しています。デイケア内においてのプログラム（ミーティングなど）や食事する時などは密にならないよう少人数でのグループ体制にし、また人と人の間に簡易的なパーテーションを設置しての対応をしています。

デイケア開所時間においても、ラッシュなど込み合う時間帯を避けて午後からの開所にし、午後のプログラムが終了した時点で、各自遅くならないよう早めの帰宅を促すようにしています。

夜間に行われている自助グループにおいては不特定多数の人が集まることもあり、その時々状況判断で参加したりしなかったりという参加状態になっています。

利用者にとってはいろいろと制限をかけている部分も多くあり、不自由な環境の中でリハビリを強いられていることもあります。犠牲にしている部分もあればとらえ方次第で余裕のある一日を過ごせるといったメリットにもつながるかと思いません。

発想の転換ができれば有意義な時間にも代えられるよう、皆で前向きにとらえる努力をするよう指導を心がけています。事態は変えられないですから。

🍀 メンバーの方の過ごし方・工夫していることを教えてください

「これはやめよう」「それはできない」といったことが増えていく中、仲間たちのストレスもたまっていくと思います。とはいえ一人でも感染者が出てしまうと、ここではほとんどの利用者が同じ寮で生活を共にしているので、リスクを伴うことは避けていく必要があります。

まず優先すべきは感染しないことに注意を払う努力をすることになります。工夫していることにつながるかは微妙ですが、スタッフは常に利用者に目を配り、声かけをしたり話を聞いたりすることで、抱えている問題の共有に普段の時より心がけるようにしています。

スタッフにとっても外に出るといった内容の仕事も激減したこともあり、利用者と接する時間も増えてきたことで、より密に関係性を築けることができているように思います。

❖その他(県民の皆様や関係機関へのメッセージなどをお願いします)

新型コロナウイルスの影響により自助グループの活動が思うように進んでいません。この依存症という病に有効な処方箋は、共感できる仲間たちとの交流とミーティングに参加することです。この友好的な手段が二つとも滞っている状態が長くなってきたことで、ダルクや他の依存症関係機関に繋がりのない仲間たちは孤立化している恐れがあります。

最近ではオンラインによる「ズーム・ミーティング」等が自助グループでも取り入れられるようになり、多くの仲間たちが小さい画面に噛り付いて、今日一日の締めくくりとしてこうした新しい形のミーティングを活用するようになりました。

しかし、やはり多くの自助グループは、場所の問題や人数制限の問題などで苦労しているのが現状です。

横浜ダルクでは、こうした現状も踏まえ、登録利用者以外の依存症者にも気軽にミーティングに参加してもらうよう前向きな対応をしています。孤立していたりして苦しんでいる仲間たちが横浜ダルクを必要と感じて来てくれた以上は、気持ちよく一緒にプログラムを緊急措置的に開放利用するようにしています。しかし、新型コロナウイルス感染症についてはデリケートに扱わざるを得ません。そこで横浜ダルクを利用するすべての者(職員、利用者、来訪者など)に最低でも体温チェックと、しつこいまでのこまめな手指の消毒をお願いしています。

こうして一見いいことばかりをしているように聞こえるかと思いますが、様々な問題も起こっています。既存の利用者にとっては、外部からくる仲間は都合よくダルクを利用しているだけに見えたり、外部からくる仲間にとっては空いた時間を使っただけのことなのでこちらからの思いを煩わしく感じたりもあるようです。「謙虚さ、配慮、そして感謝すること」、これらを忘れてくると争いが起こるように思います。

今回の新型コロナウイルスが横浜ダルクにもたらしたものは何だったのでしょうか。

世間が感染症拡大を防ぐことを優先して非常事態宣言を出すか、それとも経済的に切迫した事態から生きていくことそのものを手放さなくてはならない人たちを救うことを優先するのか・・・。

頑なに守らなくてはいけないこともたくさんありますが、柔軟に対応することの大切さも学んだ一年だったと思います。賛否両論、何をしても非難されてしまうこともあるでしょう。謙虚な姿勢で感謝の心を忘れず、己に誠実で正直に向き合うことを軸に、これからもたくさんの苦難がやってくると思いますが、横浜ダルク一同、乗り越えていこうと思います。

それがダルクの真の「プログラム」ですから。



NPO法人 横浜ひまわり家族会

『横浜ひまわり家族会』は1996年横浜ダルクの家族会からスタートして、薬物・アルコール・ギャンブルなど依存症者を抱え苦しんでいる家族の回復と、成長を目指すとともに、当事者自助グループを支援しています。また薬物依存症は病気であり回復可能であることを広く社会に啓発し、薬物依存症の防止と偏見のない健やかな社会を目指して活動しています。

🍀コロナ禍においてどのように運営されていますか

令和2年2月28日開催のオープンセミナーは、新型コロナウイルス感染拡大により直前の中止となりました。そのため、会場前で来場者の対応に当たりました。この経験で緊急時の連絡方法などその後の活動に役立てることができました。

3月から5月まで会場が閉鎖され、家族会は中止となりました。横浜市や県の精神保健福祉センター、県立精神医療センター家族会、ナラノンなどの自助グループ、及び当会事務局のある横浜ラポールも閉まり、問題を抱えている家族は行き場がなくなり、孤立化が懸念されるようになりました。

そこで4月から携帯電話相談を始めました。困った人が、いつでもどこからでも繋がるようにすることが大事であり、会員はもちろん、新たな方がネットで調べて繋がってくるようになりました。行き場の無くなった人々に寄り添い、緊急の場合はダルクに繋いで動いてもらっています。

6月から会場施設が使えるようになり、感染拡大防止策を行い、家族会を再開しました。参加者が25名～30名になり会場定員2分の1規制で部屋の確保に困っています。こういう時に行政の空いている部屋を使用できればと思います。

8月のフォーラムは、講師の先生方やITに強い世話役の力で会場とオンライン講演会に切り替え開催できました。コロナ禍で参加したくてもできなかった家族も、会場と先生と繋がり、回復の輪が広がりました。オンライン講演は初めてでしたが多くの方に喜ばれ大成功でした。with コロナの時代にマッチした方法だとは思いますが、やはり会場でのライブを中心にやってほしいとの声も多く寄せられました。これからはライブをメインにオンラインをサブにして要望に合った方法で進めていきたいと考えています。

9月と10月の研修会 秋の公開講座1回目は、講師の先生と共に会場でオンライン配信し、2回目は、先生がリモート講演で、会場とオンライン参加者とで問題の共有ができました。



🍀メンバーの方の過ごし方・工夫していることを教えてください

私たち家族は、ミーティングで会って話したり聞いたりすることで気づき、癒され健康を取り戻していきます。先行く仲間が築いてきたその原点を大切にしながら、コロナ禍で新しいコミュニケーションツールを取り入れながら、その「場」をたやすことなく続けていきたいと考えています。

(オンライン講演会の参加者からの声の抜粋です。)

- ・小さい子供もいて家を空けられず、オンラインでの講演会はとても有り難かったです。
- ・高齢者を介護しているので、コロナ罹患は避ける必要がありましたが、長い間楽しみに待っていた講演を、ZOOMで参加出来て本当に嬉しかったです。
- ・横浜ひまわり家族会のフォーラムでは、当事者及び家族の方の生のお話や講師の先生のお話が伺えて、気持ちの引き締めや知識のアップデートができ、とても勉強になります。
- ・皆様の姿や表情を観ることが出来て、苦しんでいるのは自分ひとりだけではないと心強く温かい気持ちになり元気をいただきました。
- ・奈良から長徹二先生の参加、各地域から沢山参加されて良かった。移動が無くて楽、安心して参加、実物が見られなくて残念、繋げない方々のフォローを考えて欲しい。
- ・フォーラムは会場で家族と直接見て聞きたいですね！私達家族は直接会って、体験談を聞きこれからの生活に生かしたい。リアルな繋がりも大切にできたらと思いました。
- ・「IT」の応用、活用で高齢者は「夢の国」です。コロナのおかげで、世の中が進化しています。コロナは「憎いです」が「進化は歓迎します」全て成功です。

🌸その他(県民の皆様や関係機関に知らせたいことなどを教えてください)

第6回「薬物依存症者と家族オープンセミナー」開催のご案内 (横浜市受託事業)

- 日時：2021年2月28日(日)
- 開演：12:30～16:30 (12:00 受付)
- 会場：横浜ラポール シアター (ZOOMによるオンライン配信あり)
- 基調講演：医療法人財団 青山会 みくるべ病院 副院長 岡崎 有恒 先生
テーマ『依存症への正しい対応を考える』
- 事前申し込み制 / 締め切り2月22日(月)
- 入場料/無料



チラシ、申し込みはこちら！

ホームページ <http://himawari.yokohama>

お問い合わせ/ NPO 法人横浜ひまわり家族会 事務局
〒222-0035 横浜市港北区鳥山町1752 障害者スポーツ文化センター横浜ラポール3階
TEL. 045-475-2063(木曜日10時～4時)/ 携帯 080-3488-1996

【活動内容】

- ◎家族会・研修会/毎月第2土曜日(南センター南寿荘)・第4土曜日(横浜ラポール3階)13:30～16:30 依存症の問題を抱えている家族ならどなたでも参加できます。プライバシーを守るため秘密厳守、安心と信頼の場です。
- ◎オープンセミナー・フォーラム・ダルクとの交流会などもあります。
- ◎電話ピア相談(第1第3木曜日13:00～16:00)
/ 面接相談(毎週木曜日10:00～16:00) 携帯電話相談
- ◎詳しくはホームページ <http://himawari.yokohama>

自殺の現状

2021年（令和3年）を迎えましたが、世界中が新型コロナウイルスに翻弄される日々はまだまだ続いています。日本では昨年の終息の见えない事態の中、芸能人の自殺を伝える報道、若者や女性の自殺が増えた等の報道も多くされてきました。コロナに始まり、コロナに終わった2020年（令和2年）の自殺の実態はどうだったのでしょうか。

2021年（令和3年）1月22日厚生労働省自殺対策推進室発表の「警察庁の自殺統計に基づく自殺者数の推移等」によれば、2020年（令和2年）1月から12月までの累計自殺者数は速報値では20,919人（うち神奈川県は1,245人）の方が自殺で亡くなっており、対前年比750人増（約3.7%増）でした。まだ確定値ではなく今後変動の可能性がありますが、平成21年以来11年ぶりの増加となりました。

図1

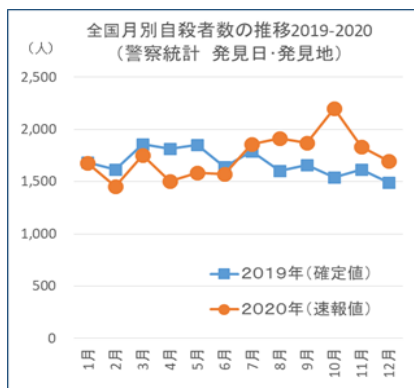


表1

警察庁自殺統計(発見日・発見地) 国と県の推移 2015~2020

	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020(R2) 速報値
全国自殺者数(人)	24,025	21,897	21,321	20,840	20,169	20,919
全国自殺死亡率	18.9	17.3	16.8	16.5	16.0	16.6
県自殺者数(人)	1,382	1,213	1,276	1,136	1,076	1,245
県自殺死亡率	15.2	13.3	14.0	12.4	11.7	13.5

※自殺死亡率:人口10万人当たりの自殺者数

コロナ禍で1回目の緊急事態宣言の期間を含め、上半期は前年より少なく、7月以降増加（図1:参照）しました。男性は13,943人（前年比135人減）、女性は6,976人（前年比885人増）で、男性は11年連続の減少でしたが、女性は2年ぶりの増加であり、今後注視していく必要があります。

近年全国の自殺者数は減少傾向にあり（表1:参照）、神奈川県は人口が多いため全国でも自殺者数は多く、自殺死亡率は低いと言えます。

しかし、自殺死亡率が低いと言っても、多くの方が自殺で亡くなり、その遺族が生まれ、友人や学校、職場、周りの方々に社会的・経済的影響を及ぼす現状が続いています。当所は、厚生労働省による地域自殺対策予防情報センター運営事業実施通知を受け、平成21年4月、神奈川県精神保健福祉センター内に「かながわ自殺予防情報センター」を設置し、平成29年4月、「かながわ自殺対策推進センター」に名称変更し、自殺対策の事業展開、推進に取り組んでまいりました。今後も引き続き市町村、保健福祉事務所・センター、地域の関係機関の皆様と共に、地域における自殺対策の推進に取り組んでまいります。

自殺対策普及啓発キャンペーンのグッズを作成しました！

精神保健福祉センターでは、毎年9月の自殺予防週間と3月の自殺対策強化月間にあわせて、神奈川県内の市町村や各保健福祉事務所と協力をして、自殺対策普及啓発のキャンペーンを実施しています。

今回は、普及啓発キャンペーンのグッズを3,000部作成し、『いきるを支える鎌倉・逗子・葉山 実行委員会』と協力し、各市町の相談窓口にて配布します。

例年9月の自殺予防週間の時期に自殺対策講演会を実施していますが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて中止いたしました。

しかし、このような状況であるからこそ、皆様に自殺対策についてお伝えできるようにと、自殺対策講演会の代わりに、精神科医の禅僧「川野泰周先生」に『いきるを支えるメッセージ』として、執筆いただきました。自分のことを大切にするために、自分でできるセルフケア（自分でできるストレス緩和法）について、小冊子にまとめていただきました。

キャンペーングッズは、相談機関の案内紙や障害福祉サービス事業所が作成した啓発グッズとセットで配布します。多くの方に手に取っていただき、ご活用いただけますと幸いです。

相談機関の案内紙



事業所が作成した啓発グッズ



精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療(精神通院医療)について

○ はじめに

神奈川県精神保健福祉センターでは、神奈川県（横浜市・川崎市及び相模原市を除く、以下同様）にお住まいの方の精神障害者保健福祉手帳（以下「手帳」という）と自立支援医療（精神通院医療）（以下「自立支援医療」という）受給者証の認定、交付の事務を行っています。

手帳、自立支援医療のいずれにおきましても申請件数は、年々増加しており、自立支援医療受給者証(精神通院)をお持ちの方は令和元年度末には5万人を超え、手帳をお持ちの方も令和2年度末には3万人に達する状況です。当面の間はこうした状況が続くものと考えております。

申請件数の状況（平成27年度件数を基準とした増加率）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
自立支援医療	43,477	45,196	46,840	48,912	50,753
(増加率)	—	4.0%	7.7%	12.5%	16.7%
手帳	22,191	23,663	25,136	26,739	28,408
(増加率)	—	6.6%	13.3%	20.5%	28.0%

【参考】令和2年12月31日現在の申請件数

・自立支援医療 56,293 ・手帳 29,238

○ 適正な事務処理に向けて

上記のように申請件数が増加している中で、適正かつ迅速に事務処理を進めていくことが課題となっており、当所でも様々な業務改善を行いながら対応しているところですが、できるだけ事務処理が円滑に進みますように、手帳及び自立支援医療の申請の際には、申請者の方々にも、次の3点について、御協力をお願いしたいと思います。

- ① 申請時に必要な書類の不足、添付していただく診断書の記載漏れ等により認定及び交付が遅延する場合がありますので、余裕をもって申請を行っていただきたいこと。
- ② 既に手帳又は自立支援医療受給者証(精神通院)をお持ちの方が、有効期限後も引き続き手帳又は自立支援医療受給者証(精神通院)の交付を希望される場合には、いずれも有効期限の3か月前から更新手続きが可能ですので、できるだけ早めに手続きを行っていただきたいこと。
- ③ 必要書類等については、お住まいの市町村によって異なる場合がありますので、申請の前に市町村の手帳及び自立支援医療の担当窓口を確認を行っていただきたいこと。

○ 経過的特例の延長について

自立支援医療費(精神通院医療)における月額自己負担上限額2万円の受診者（一定所得以上(市町村民税所得割23万5千円以上)の「世帯」で、かつ高額治療継続者(いわゆる「重度かつ継続」)に該当する受診者)につきましても、自立支援医療の支給対象となる経過的特例が、令和3年3月31日までとなっているところですが、令和3年4月1日以降も本経過的特例が延長される予定となっております。経過的特例に係る取扱いが正式に決定されましたら、当所のホームページにて案内を掲載しますので、御確認ください。

なお、神奈川県から自立支援医療の受給者証を交付されている方につきましては、経過的特例に関する注記と併せて、経過的特例が延長された場合の有効期限が既に印字されていますので、経過的特例の延長が決定された際には、有効期限までの間、お持ちの受給者証をそのままお使いください。

○ 精神障害者保健福祉手帳のカード化について

平成31年4月に手帳の様式が規定されていた省令が改正され、希望する場合は、カード形式での交付が可能となりました。現在、令和3年の秋ごろから発行できるよう、準備を進めているところです。詳細が決定されましたら、当所のホームページにて案内を掲載しますので、御確認ください。(カード形式は顔写真が白黒になります。今までどおりの紙形式(顔写真はカラー対応可能)での発行も可能です。)